

---

# ノンカピスコ・子猫のような君

天野 涙

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ノンカピスコ・子猫のような君

### 【Nコード】

N9998D

### 【作者名】

天野 涙

### 【あらすじ】

初老の女性が、ある日、若い子猫のような男をひろった。

ねえ、クロ。元気にしてる？

あなたがいなくなつて、もう何ヶ月たったのかしらね。

初めて会ったのは、桜が散る季節。花曇りの朝だった。

飼い犬のサキを連れて、散歩をした帰りの事、

公園の桜の下、あなたはうずくまっていた。

いつもなら、気にも止めないのに、かいま見たあなたが、あまりに可愛いので

つい・・・声をかけてしまったのだ。しなやかな子猫のように見えた。

『もし・・・どうしたの？』

後であなたは言つてたわよね。

（もし、あの時、ゆり子さんが助けくれなかったら、

俺・・・今頃どうなっていたかと思うよ）

女泣かせの嘘をつく。でも嬉しかったのが懐かしい。

『お腹が痛くて・・・すいません。助けてください。』

『じゃあ、救急車呼びましょうか？』

あなたは苦笑いしながら、首を振る。

『恥ずかしいけど・・・ここ2、3日何にも食べてなくて・・・』

どうやら、空腹すぎて痛いらしい??

私はついそこで、声をかけてしまった。

『じゃあ、私のうちに来る？ご飯食べましょう・・・』

後から思うと、なんでそんな軽はずみなことを言ってしまったのか  
わからない。

でも、目の前にいる可愛いあなたを見ると、立ち去りがたくそう言  
ってしまった。

もうそこで、そう言う運命だったとすら思う。

『え？見ず知らずのあなたに迷惑でしょう？』

『うつん、どうせ一人だから。ご飯って誰かと食べる方が美味しい  
じゃない。』

『じゃあ、お言葉に甘えて・・・』

そう、あなたは甘えてばかりいたわよね。

でも嬉しかったの。本当に。

サキもあなたにすぐなつき、まるで違和感なく 嬉しげにあなたを  
追って歩いてた。

それから、二人で食べたよね。

あなた、モリモリ食べて・・・でも食べ方がキレイだった。

素性もわからないのに、育ちは悪くないと思えたのよ。

『あなた、名前は？』

『笑わないでくださいね。クロって言っんです。』

『クロ？なんか猫みたい。』

『そう、よく言われます。にゃん！』

そうあなたは子猫のように、しなやかに、人の心に忍び込む名人だ  
と思うわ。

朝食を食べると、途端に居眠りして、そのまま翌朝まで  
寝たのには驚いた。

よほど疲れていたのね・・・私は単純にそう誤解したの。  
寝顔も可愛くて、そつと寝かせてあげたくなった。

私はあなたをそのまま延々受け入れてしまったのよ。

『あなた、仕事は？』

『レンタル家族・・・』

『え？』

『いえ、今思いついて、開業したばかり。

淋しい人の為に、時には息子。時には恋人になるって、よくない  
ですか？』

彼は、まるで私の心を見透かしたようにそう言って笑う。

『じゃあ、私にお客第1号になって欲しいって事？』

『おありがとうございます。』

何かわけのわからない間に商談成立？

笑っちゃうわよね。

それから、本当に時に息子になり、恋人になり？過ごした夢のよう  
な日々。

でもふいにあなたは思い立ったように、荷物をまとめだした。  
(と言っても、みんな私が買ってあげた服だけ・・・)

『クロ、どうしたの？どこに行くの？』

あなたは、悪びれることもなく こういったわ

『次の商談がまとまったんだ。お名残惜しいけど・・・もう行かなくちゃ。』

『そう・・・淋しいけど。お別れなのね。』

『うん、ゆり子さん。よくしてもらったよ。ありがとう。』

『元気だね。』

玄関で振り向きざま、あなたは言ったわ。

『ゆり子さん、請求書は後で送るよ。』

『請求書？』

『うん、僕も一応商売だから。』

そう・・・ああ、あなたレンタルだものね。

改めて言われると、少しショックだった。所詮ごっこだったのか・・・。

あなたがいなくなってから、私は抜け殻だった。  
毎日淋しかったわ。

でもある日、突然不動産屋が来て、私を追い出したのよ。  
いつのまにか、知らぬ間に

あなたが不動産の権利書を持っていつて、売却したと聞かされたわ。

（ああ、これがあなたの言う報酬なわけ???)

ショックだった・・・。高すぎるわ。

でも幸い私には、親が残した財産がまだあって、  
今は所有のワンルームマンションの一室にいるの。

ちょうどいい広さだけど・・・まあ、前の家は広すぎたのね。

でもね、あなたをまだ探してる。

次の商談は私にしてと・・・言いたくて。  
電話してね、クロ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9998d/>

---

ノンカピスコ・子猫のような君

2010年10月9日15時18分発行